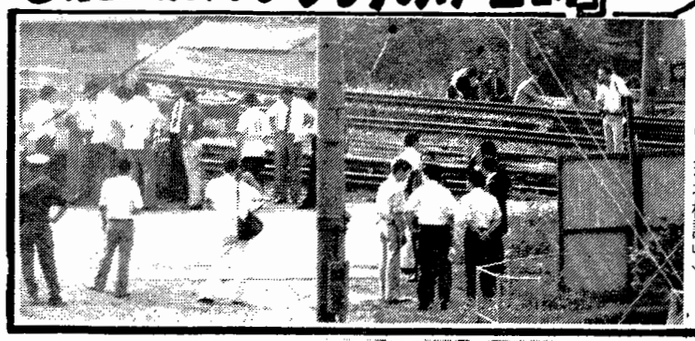
日刊 動労千葉
81.12.25
No. 930
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

一年間をふり返って

各支部長に聞くその3

写真で見る 動労千葉 一九八一年 ③

『6.12「本部」革マル分子による デッチあげ告訴』と対決



嶋田・斉藤(当)らは、身ぶり手ぶりのデッチ上げ演技で、10名の仲間を権力に売りわたしたのだ！（7月8日、デッチあげ「現場検証」）

千三百の連日の奮闘は、不当逮捕（7／15）、長期勾留をはねのけ、完黙非転向で6名の仲間を奪還した。（出獄・7月31日＝千葉刑前にて）

今年の一年は短い一年でした。正月を返上して闘った、銚子支部を中心とした組織破壊攻撃を一三〇〇名組合員総決起で勝利し、休む暇なく助役機関士の線見阻止闘争、三月ジェット闘争を貫徹し、勝利させました。しかし、われわれに対する密集せる反動総体からの攻撃として、解雇四名を含む二二五名の大量不当処分通告、「労働組合は政治闘争を闘うべきではない」というマスコミのキャンペーンや、6・12「津田沼事件」デッチ上げ、告訴・告発、不当逮捕と休む暇もなく闘いつづけた一年でした。とりわけ三月ジェット闘争は、成田支部組合員にとって、支配階級の軍事大国化、国鉄三五万人体制合理化攻撃、右傾化する労働運動の中にあって、これからの、職場生産点での闘いを学んだことは、三月闘争で流した血の量よりも何倍も大きいと確信しております。

※　※　※

※　※　※

3月闘争で得たものは 流した血の量の何倍も大きい

成田支部
執行委員長
日暮　明

私が執行部を担当してより八ケ月の月日が流れました。

この間、組合の内にあっては、動労「本部」革マル反動分子による悪らつかつ謀略的攻撃や、当局一体となった国家警察権力の策動的攻撃が強行されてまいりました。

特に、6月13日、津田沼支部執行部に対するデッチあげ「暴行傷害事件」を、告訴をもって警察権力へと売渡した動労「本部」革マル集団の卑劣さは、労働者として許しがたい行為といわざるを得ません。

われわれは、この脅迫的・反動的・反階級的暴挙によってなされた動労千葉への破壊工作に、一歩も引くことなく千三百名の総力を結集し、これに敢然と闘ってきたところて敢然と勝利したことは、ご存知のとおりであります。

外にあっては、いまや日帝・支配階級の軍事大国化・産報化は、急ピッチで進められているのが現状であり、総評労働運動の解体・破壊を狙った攻撃であるといえます。

われわれは、この総評はもとより、日本労働運動全体が右傾化へと激しく揺れ動いているこの事実を、支配階級の労働組合圧殺攻撃と十分理解し、これに対応せねばならないと思う。

さらに、今後くるであろう新マル生運動の波状攻撃、動労「本部」革マル反動分子の反動的圧殺攻撃と国家権力一体となった当局の策動的弾圧攻撃に対し、動労千葉に結集する全組合員は一致団結し、これに敢然と立ち向ってゆかねばならないと思います。

権力・当局・動労「本部」革マル 一体の攻撃と敢然と闘ってきた

館山支部執行委員長　吉田五月

であります。

また、三里塚二期工事阻止にむけての闘いも、10・11にみられたように、労農一帯となった三里塚総決起集会は、一万一千五百名の結集をもっ